

マルバノサウトウガラシ滋賀県朽木村でみつかる

藤井伸二*

Shinji Fujii: *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) Yamazaki: a new locality record from northern part of Shiga Pref.

1995年10月8日、滋賀県朽木村で水田雑草の調査を行った際、古屋と小川の2ヶ所でマルバノサウトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) Yamazaki が生育しているのを発見した。滋賀県下での本種の記録としては、北村他(1964)および村田(1959)に大津市田上山産の標本が引用されているが、滋賀県北部での記録ははじめてと思われるので報告する。なお、本種は「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989)および「近畿地方の保護上重要な植物」(1995)に、保護の必要な植物としてリストされている。

採集場所はどちらも針畑川沿いの谷底につくられた水田で、稲刈り直後であった。古屋の水田ではサウトウガラシ *Deinostema violaceum* (Maxim.) Yamazaki, キカシグサ *Rotala indica* (Willd.) Koehne var. *uliginosa* (Miq.) Koehne, ヒロハイヌノヒゲ *Eriocaulon robustius* (Maxim.) Makino, アゼトウガラシ *Lindernia angustifolia* (Benth.) Wettst., アゼナ *Lindernia procumbens* (Krock.) Philcox, アメリカアゼナ *Lindernia dubia* Pennell, マツバイ *Eleocharis acicularis* (L.) Roem. et. Schult. var. *longiseta* Svenson の個体密度が高く、湿生植物群落として良好な状態である。一方、小川の水田ではキカシグサ, ヒンジガヤツリ *Lipocarpa microcephala* (R. Br.) Kunth, アゼトウガラシ, サウトウガラシなどが生育していたが、貧弱なサイズの個体ばかりで密度も低かった。どちらの水田も運動靴でなんとか歩ける程度の湿り気だが、部分的にややぬかるむ湿田的な性格を持つ。マルバノサウトウガラシは他の植物種に比べると水田のごく一部にしか見られず、非常に局所的な産状を示した。周辺地域の水田と比べて2地点の水田には特別な共通点があるとは思えず、なぜ限られた場所に本種が生育していたかは不明である。

次に、近畿地方(ここでは便宜的に福井県を含めておく)における分布を明らかにする目的で、大阪市立自然史博物館(OSA)および京都大学理学部(KYO)所蔵の近畿地方産の標本を検討した。その結果、過去に採集された産地は今回の2ヶ所を含めてわずかに8ヶ所であった。標本の少ない理由としては、もともと分布の限られる希な植物であることだけでなく、水田環境に調査の目が充分向けられなかったことも理由だろう。

かつての湿田は湿生植物の宝庫だったと思われる。しかし、農作業の負担軽減や機械化のために排水路の整備が行き届き、今日では湿生植物の生育に適した湿田が稀となっている。本種が農耕方法の変化等によって気づかないうちに消滅しつつある可能性は高いが、その実態は不明だ。アズマツメクサ *Tillaea aquatica* L. も同様の例と想像され、私は標本でしかこの水田雑草を知らない。フロラ調査の盲点ともいえる水田環境は、その実態が充分解明される前に激変している。

なお、本研究の一部は文部省の科学研究補助金奨励(A)07780484による補助を受けて行なったものである。記して感謝する。

引用文献

- 北村四郎編, 1968. 滋賀県植物誌. 保育社.
 村田 源, 1959. 近畿地方植物誌 (5). 兵庫生物 13 (5): 409-413.
 レッドデータブック近畿研究会, 1995. 近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿—. 関西自然保護機構.
 我が国における保護上重要な植物種および植物群落の研究委員会植物種分科会, 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. (財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会.

*大阪市立自然史博物館

【付録：近畿地方における標本記録】

福井県：敦賀市樫曲, alt. 50m, S. Watanabe 22404 9-x-1982 (KYO); S. Watanabe 22175 15-ix-1982 (KYO); 一滋賀県：栗田郡下田上村(現大津市)田上山(水田), alt. 100m, G. Murata 12193 29-ix-1958 (KYO); 高島郡朽木村針畑川沿い小川(水田), alt. 350m, S. Fujii 4529 8-x-1995 (OSA); 同古屋(水田) alt. 420m, S. Fujii 4525 8-x-1995 (OSA); 一奈良県：

宇陀郡室生村向湖(水田), alt. 530m, K. Seto 18486 26-viii-1969 (OSA, KYO); 一和歌山県：古座町下田原堂道(水田), alt. 15m, K. Seto 30966 15-x-1984 (OSA); 一兵庫県：美方郡美方町大谷(水田), S. Hosomi 9007 23-ix-1969 (KYO); 同小代(水田), alt. 400m, G. Murata 19899 22-x-1966 (KYO); 温泉町春來峠(水田), alt. 400m, G. Murata 20124 7-xi-1967 (KYO).

大阪府にイセウキヤガラが生育していた！

藤井 伸二*

Shinji Fujii: *Bolboschoenus planiculmis* (F. Schmidt) T. Koyama:
A new locality recorded from Osaka Pref.

これまでイセウキヤガラ *Bolboschoenus planiculmis* (F. Schmidt) T. Koyama は、北海道・東北・関東・東海地方の太平洋側と四国・九州地方に知られていた(小山, 1980; 角野, 1994; 藤井, 1995)。今回、大阪市立自然史博物館収蔵のコウキヤガラと同定されていた標本を再検討した結果、大阪府にもイセウキヤガラの生育していたことが明らかになったので報告する。

標本は里中長治氏が貝塚市二色の浜で採集されたものである。桑島(1990)にはコウキヤガラの産地として二色の浜が挙げられているが、これは里中氏の標本をコウキヤガラと誤同定して引用したと思われる。小山(1980)には大阪府の分布として大阪市住吉区(現住之江区)南加賀屋産の標本(瀬戸剛7605(NY))が引用されているが、自然史博物館所蔵の重複標本を検討したところ、これはコウキヤガラであることが判明した。

藤井(1996)では徳島県の本種の記録を四国地方からはじめてとしたが、小山(1980)に高知県産の標本が引用されており、京都大学理学部所蔵の標本を検して間違いないことを確認した。ここに、徳島県からの本種の記録は四国地方で2例目であると訂正したい。

イセウキヤガラとコウキヤガラの区別点は Shimizu(1967), 小山(1980), 角野(1994)などに詳しいが、

小崎(1991)のなかでは野口達也私信としてコウキヤガラの苞葉の縁には微小な刺があつてざらつくのに対してイセウキヤガラは平滑であることが述べられている。この形質は最も分かりやすいので、今後出版される図鑑や一般書で広く普及されるべきである。

なお、参考までに本種がこれまでに記録された府県とその文献等を以下に挙げておく。

北海道	小山鐵夫(1980)
青森県	薄葉 満(1988)
岩手県	小山鐵夫(1980)
福島県	薄葉 満(1986)
宮城県	小山鐵夫(1980)
千葉県	小山鐵夫(1980)
神奈川県	神奈川県植物誌調査会編(1988); 小崎昭則(1990)
愛知県	中西弘樹(1973); 愛知県植物誌調査会(1996)
三重県	T. Shimizu(1967)
大阪府	本報告:〔証拠標本〕C. Satonaka Aug. 7, 1981 大阪府貝塚市二色の浜(OSA)
徳島県	藤井伸二(1995)
高知県	小山鐵夫(1980)
福岡県	筒井貞雄(1983)
佐賀県	角野康郎(1994)
宮崎県	筒井貞雄(1983)

*大阪市立自然史博物館